

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490100205		
法人名	有限会社 すまいる		
事業所名	グループホーム あおば 1階		
所在地	大分市大字金谷迫 1493番地14		
自己評価作成日	平成22年01月03日	評価結果市町村受理日	平成23年03月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年2月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

周りがみかん畑に囲まれた自然豊かな環境に位置している。  
ご家族も毎日のように訪問頂き、入居者と一緒に歌ったりお茶を飲んだりと家庭的なホームである。車椅子用特殊入浴装置を設置しており、ADLの低下した入居者も安心してゆっくり入浴して頂ける。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・住宅地の中の高台にあり、周りにはみかん畑もあり自然豊かな環境である。なお、食料品を扱うスーパーなどもあり生活環境がよい。  
・職員が明るく、チームワークもよく、アットホームな雰囲気の中で、利用者もゆったりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏に理念を印刷しており、常に個々のスタッフが確認できるようにしている。月一回のスタッフミーティングにおいて具体的なケア方針の統一を図っている。	日々の中で気づいたときにその場で注意をするOJTを取り入れている。なお、自分のしているケアを日々見直すことで、理念でもある「自分の入りたくなるホーム」の実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛け地域の方々や挨拶を交わしたり会話を楽しんだりしている。自治会にも加入しており地域の方がボランティアに来て頂いている。	敬老会のときに、地域の方が手品や踊りをしに来てくれたり、近隣の人が「庭を見に来ない？」などと誘ってくれる。回覧板の表紙に事業所の紹介を載せており、普段から地域住民の目に触れるように工夫されている。認知症サポーターの研修も計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じて地域の方々に認知症介護の相談はいつでも応じる旨伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取り組んでいる内容についても報告し意見や提言を頂いている。	自治会長や副会長、民生委員など地域の住民の参加がある。会議の中で、地元の消防団との関係作りのために挨拶に行くようにとアドバイスがあると、早速挨拶に行くなど、会議での意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市役所担当課職員に参加して頂き、ホームの活動報告やケア方針等を伝えアドバイスを頂いている。	運営推進会議には、必ず市の職員が参加しており、日頃からよい関係作りができています。事業所の活動内容なども良く理解している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングの議題に取り上げ、高齢者の人権擁護や身体拘束ゼロに向けての意見交換を行っている。	2ヶ月に1回、各ユニットごとにスタッフミーティングを全員参加で行っている。その中で、具体的な事例を取り上げ、拘束にあたるのかどうかについて皆で意見を出し合い、話し合いをしながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティングの議題に取り上げ、高齢者の人権擁護や身体拘束ゼロに向けての意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修会や講習会へ参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に書面にて説明し同意を得ている。(記名捺印)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情やホームに対するご意見については管理者が窓口となって対応しており、「ご意見箱」を設置し気軽に意見を伝えられるようにしている。頂いたご意見や苦情については掲示板に対応策や改善策を明示している。	面会も多く、家族が直接意見を言えるような関係づくりができています。利用者の意見には、それぞれのケアの場面で、話しやすいように配慮して聞いている。出てきた意見は、ミーティングなどで話し合い改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見交換を行い、常にコミュニケーションを図っている。	管理者が現場に出ているので、普段から何でも言いやすい状況である。また、2ヶ月に1回のスタッフミーティングで意見交換の機会を設けている。布団乾燥機や加湿器などの要望や、利用者にとって大事な物品などの提案には、即対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ公平な目で評価している。 処遇改善交付金制度に則り職場(労働)環境の改善にも取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には経験や資格に応じ積極的に参加させている。特に介護経験の無い者については基礎的な研修を受ける機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大分県連絡会に加入し、会主催の研修会や講演会に参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々寄り添うケアに心掛けており、毎日一人ひとりとコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時にご本人及びご家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に現在の状況を聴く中で、最も優先すべき事項を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事(調理・洗濯・掃除等)について入居者の残された能力に応じて積極的に参加して頂いている。 共に行う上で教えられることも多く、互いに支えられてることを実感できる場面作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベント等を通じてより良い家族関係の構築に努めている。 ケア上での問題が発生した場合ホーム内だけで解決せず、ご家族の意見や要望を取り入れた上で方針決定している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔結婚式を挙げた神社や思い出の場所等を聞きとり、お連れしている。	結婚式を挙げた思い出の場所に行きたいという利用者の言葉を聞き、その神社に行ったり、行きつけの美容院に出かけるなど、本人の思いを把握し、支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係についてスタッフは情報を共有し、関わり合いが円滑に持てるよう働き掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には出来るだけ詳細な情報を提供しており、相談があれば随時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を参考にしたり、日々の関わりの中で把握に努めている。ミーティング時には常に検討している。	幼少期や、成人してからの生活や職業など、生活歴を詳しく記入できるようなアセスメントシートを作成し、入居時に家族に詳しく記入してもらっている。日々の中で把握したことは、その都度ミーティング時に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者時にご家族に対しアセスメントシートの提出を求め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察し心身状態を把握し、能力の維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前にはご家族やスタッフの意見や要望を聞き反映させている。	ワーカーが1~2人の利用者を担当していて素案を作り、ケアマネジャーがプランを作成している。ケアプランチェック表で目標の実施状況をチェックしている。プラン内容は把握しやすいように利用者ごとの部屋に掲示している。必要があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の介護記録はスタッフ間で共有しており、ケアプラン作成時には参考になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な発病時などは病院への付き添い受診等を実施している。 各種申請手続き等はホームにて代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には市役所・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会長等に参加頂き、地域情報の提供をお願い活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力医療機関にかかりつけ医を変更して頂くようお願いしているが、科目によっては柔軟に対応している。 入居者全員が二週間に一度協力医療機関主治医の往診を受け、健康管理をしている。	2週間に1度協力医が回診に来ている。歯科医の訪問診療もある。回診時の状況については、毎月の請求書送付時に家族に報告している。なお、必要に応じて随時電話で連絡、報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と入居者の健康管理については常に話し合いを持ち、主治医往診時に正確な情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の必要性を判断するのは常に主治医であり、往診や定期的な検診により入居者個々の情報は常に把握して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合及び看取りに関しては書面にて説明し同意を頂いている。	家族の要望があれば対応するが、基本的にはしない方針である。入居時に事業所が対応できる範囲内の看取りケアについて説明をしている。現在まで終末期のケアに対する希望はない。希望が上がった場合は、スタッフにも説明を行うように考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し熟読するようスタッフに申し伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員指導のもと消火・通報・避難の訓練をスタッフ全員参加で実施した。 マニュアルは作成し、市へ提出済。	改善シートを作成し、消防署と合同で1回、ホーム内で1回と、年2回の訓練を実施するなど改善されている。今後は自治会との合同訓練を予定している。レトルト食品、水、オムツなどの備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に常に話し合い検討しているが、呼称等については難しい問題と感じている。馴染みの関係を築く上で、必要以上の敬語は障害となるケースも考えられる。本人及びご家族が不快感を抱かない範囲での対応がベストと考える。	自尊心を傷つけないように気をつけながら、利用者に合わせた呼び方をしている。しかし、排泄介助や、食事介助の場面でプライバシーや、個々の尊厳への配慮が十分でない場面が見受けられた。	特に、排泄は羞恥心を伴う行為であり、介護者の配慮が望まれる。なお、認知症であっても大人として、その人を尊重する支援を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で食べたい料理や食材を聞きメニューに反映させている。 買物同行時には食材の選定をお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースはなるべく尊重する努力は行っているが、全てとは言えない。共同生活を送る上でのメリット・デメリットと考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の着替えの衣装を一緒に選び、本人の意思を尊重している。 毎日お化粧をされてる方もおられ、化粧品の購入についても同行し選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や片付けを一緒に行っている。一人ひとりの好物を聞き出しメニューに加え、食事が楽しみなものになるよう心掛けている。	朝食と夕食は職員が作っている。昼食は専門のパート職員が作っている。利用者の希望に配慮し、バランスを考えて献立に取り入れている。また、昼食作りは利用者の状況に合わせて、出来るところは手伝ってもらいながら一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調・状態を確認し、食事や水分量の把握に努めている。食事量の少ない方には果物等を用意するなど栄養・カロリー摂取には注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援や声掛けを行っている。 定期的に訪問歯科のスタッフによる口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を決めて誘導するなどトイレでの排泄自立支援を行っている。	日中はリハビリパンツが主でオムツは使用していない。排泄チェック表を参考にしながらトイレ誘導を行っている。言葉がけや、トイレ使用を本人の好みに合わせるなどの工夫をし、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で発熱したり不穏になったりと、大きく影響することは理解している。水分摂取を促したり散歩や体操等により便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は水道光熱費等経費の問題もあり決めている。	1階と2階の2ユニットのため、建物の構造上、週2回づつ交代で入浴日を決めている。利用者からも入浴回数増を求める声は聞かれない。が、週2回の入浴となっている。	入浴改善シートを作成し改善に取り組んでいるが、入浴は楽しみの一つでもあり、利用者の生活習慣に合わせる工夫や配慮が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて日中の活動を促し、夜間ゆっくり眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理についてはスタッフが二重確認している。薬品説明書をファイルしスタッフがいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや出来ること・得意なことについてはお願いしている。食事の準備、食器の片付け、掃除、歌等役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候を考慮した上で外気浴・散歩は行っている。希望を聞きドライブに出掛けたり、買い物に出掛けたりしている。ご家族と外食を楽しむ方も多い。	施設周辺に散歩に出かけたり、希望を聞いて近くの店に買い物に出かけたりしている。梅見物や、植物園など、季節に応じた外出もしている。家族と一緒に外食に出かける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に多額の金銭は持たせないようご家族にお願いしているが、買い物時等はホームから金銭をお渡しし本人に支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や葉書を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や空調については配慮している。 季節に応じて入居者の作品を飾ったり、写真を掲示するなど居心地良く過ごせるような工夫をしている。	玄関には、木彫りの豆まきの人形を飾ったり、干支のウサギを利用者が貼り絵にした作品を飾ったり、雛飾りを飾るなど季節感がある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・ソファ・庭等思い思いに過ごせるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけご家族にお願いし、使い慣れた物をお持ち頂くようにしている。	嫁入り道具の三面鏡を居室に持ち込み、その前で化粧をしている方もいる。家族の面会時に使用するための、使い慣れた座椅子を置いたり、家族の写真を飾るなど、個別に応じて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレが分かりやすくする工夫をしている。 ホーム内は全てバリアフリーで、要所には手摺りを設置するなど安全に生活できるようにしている。		